

佐原の町並みの成り立ち

前回までは、小野川沿いの町並みを紹介してきましたが、佐原の町を見る場合、やはり商家のメインストリートは、忠敬橋を東西に横切る通り沿いになるだろう。本題に入る前に、前回までの河岸(かし)通りと言うのは、筆者が付けた仮称であり、佐原の川沿いは、川岸(かし)というのが、本来だと思います。地図を参照にすると、佐原の町を小野川という川が南北に走り、町を東西に分け、その東側を本宿(ほんじゅく)と言い、西側を新宿(しんじゅく)と言います。この呼び名は、地名では無く、本宿側は夏(7月)の八坂神社の祇園祭があり、新宿側は秋(10月)の諏訪神社の諏訪祭があることによります。ちなみに佐原の祭りがいつ始まったのかは、はっきり確定してないのですが、享保初頭であるようです。祭りについては、奥が深いので、話を町並み紹介に戻したいと思います。地図に戻って、まず、小野川沿いの町内名(字名)は～川岸(かしと読む)が多いのです。本宿側の本川岸(ほんがし)に始まり、新宿側の仲川岸(なかがし)新上川岸(しんうわがし)横川岸(よこがし)などと続きます。また、忠敬橋を東西に延びる通り沿いでは、～宿(じくと読む)という町内名が多い。例えば新宿側では、下宿(しもじく)中宿(なかじく)上中宿(かみなかじく)上宿(かみじく)と続いき、本宿側は、田宿(たじく)寺宿(てらじく)となります。もちろん例外もあります。それぞれのほとんどの町内には、大きな人形飾りが天井に乗った山車(だし)があり(山車の無い町内もある)佐原の町を佐原囃子と共にゆったりと練り歩くのです。ここでこの地図について、保存地区の位置はおおよその目安です。また、町内名の位置は、多少のずれがある事を付け加えておきます。

東西に延びる通り沿いの町家を観る



▲改修後の資料館ドーム屋根



この通りは、県道佐原山田線になりますが、通称忠敬橋を中心に新宿側を下分(しもわけ)通り、本宿側を本橋元通りと呼んでいます。まず、先に本橋元通りを中心に観ていきましょう。このメインは、なんとと言っても先頃(令和3年2月)改修が終わった旧三菱銀行でしょう。大正3年に川崎銀行として発足し、三菱銀行に受け継がれ、現在は、香取市の資料館として残っています。この建物の来歴を話すだけで1時間の講演が簡単にできるでしょう。興味ある方は調べてみてください。

次に資料館の前にある蠅川家具店が目に入ります。



▲蠅川家具店